

釜石港のジブクレーンが供用開始（釜石市）

～内航フィーダーコンテナ航路開設を目指して～

港湾課

平成21年12月19日、釜石港の公共ふ頭（耐震補強岸壁（-7.5m））で、昨年9月に搬入されたジブクレーンを使った初のコンテナ貨物の積み出しが行われ、野田釜石市長、若林釜石地方振興局長をはじめ関係者が参加して、供用開始式典が開催されました。

今回使用されたジブクレーンは、釜石市の第3セクター釜石港物流振興(株)が北海道釧路市から購入し、点検・整備していたものです。今回の積み出しに合わせて、釜石地方振興局土木部で行っていた岸壁（-7.5m）の補強工事も終わり、初の積み出し作業となりました。今回積み出しを行ったコンテナは、釜石市の(株)及川工務店が岩手県内で発生した廃プラスチックを入れた40フィートコンテナで、6本を中国向けに輸出したものです。

今後とも、内航フィーダーコンテナの定期航路開設に向けて、ポートセールスに取り組むこととしています。

ジブクレーンによるコンテナ荷役の様子



入港船舶
内航フィーダーコンテナ船「いくた」
総トン数：749トン 全長：96.8m
最大積載：250TEU
(40ftコンテナで125本)
(井本商運(株)公式HPより)

供用開始式典の様子



内航フィーダーコンテナ輸送とは？

国内主要港と地方港を結ぶ、外国貿易コンテナの国内2次輸送のこと。世界の各港湾とつながっている京浜地区などの港湾でコンテナを国際航路の船舶に積み替えることで、地方港でも各国との貿易取引が可能になります。フィーダーは幹線に対する支線の意味です。